

平成28年度第2回(英語教育・コミュニケーション関係学)グループ合同委員会議事概要
英語教育FD/ICT活用研究委員会
CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会

- I. 日 時 : 平成28年10月15日(土) 11:00~13:30
II. 場 所 : 私立大学情報教育協会 事務局
III. 出席者 : 英語教育FD/ICT活用研究委員会 田中委員長、松村委員、原田委員、山本委員、
吉田アドバイザー、五十嵐アドバイザー
CCCコミュニケーション関係学グループ運営委員会 阿部委員、鈴木委員(スカイプ参加)
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 議事概要

英語教育の田中委員長が進行役座長となり、前回(第1回合同委員会)、対話集会のテーマを「連携の教育」としたことで、話題提供の一つは「高度教養教育とCLILによる専門教科と語学を結びつけた教育」としたことを確認した。二つ目の話題提供としてとりあげることにした「学生が主体性を持って学ぶ場づくり、学生が気づき自ら学ぶ授業のありかた」については、新たに各委員から提出された提案意見をもとに対話集会における話題提供等具体的な開催内容について検討を行った。

話題提供などについての主な意見

- ・学生が専用教室に集まり、教員が出したテーマを議論することなど、学生が外国語と接しながら主体的に学ぶ課外教育の取組みや、英語による模擬裁判を学内、学外で競わせるゼミ授業と課外教育の取組みが報告された。
- ・大学が、留学前後の学生と海外からの留学生とが主体的に交流する場を設けている事例や、大学が留学希望者に設けたイングリッシュラウンジでは海外の提携大学のネイティブ教員が支援し、海外からの留学生に設けたジャパニーズラウンジでは日本人教員が支援している取組みが紹介された。また、大学が海外研修後の学生に対しTA, SAを準備し、研修時に高まったモチベーションを継続させる組織的な取組みなども報告された。
- ・一方、施設や環境は整備されたが成果を出すまでに至っていない大学も多いことが認識され、共通意見として、教員間の理解と地域を含めた協力体制が必要であることが確認された。
- ・学生に主体性を持って学ばせるには、「いろいろな学生が分野連携して新しい学びを創っていくことが重要であり、例えばネットを使い、自分達の知識で日本や地域の説明や紹介を世界に発信していくような試みが考えられるのではないか」との意見が出された。いろいろな分野の教員が連携しネットを使った新しい学びの場を作り、学生に見せて考え発信していくような提案型の話題提供も良いのではないかと認識がなされた。
- ・ICTを活用したオンライン国際交流学習COILが紹介された。海外大学の教員が連携し、いろいろな分野の学生が海外の学生と共通言語である英語を使い、PBLの課題を多様な価値観で議論し、共同で学ぶ実践方法であることが認識された。

意見を踏まえて意見交換のテーマと話題提供を以下のように決定した。

課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法と、それを実現していくための授業運営の工夫と組織的に推進していくための教学マネジメントの工夫について下記のテーマで意見交換を行う。

(1) 意見交換

〈アクティブ・ラーニング〉

- ・知識の定着・確認を目指したアクティブ・ラーニング効果の振り返り
- ・知識の活用・創造を目指したアクティブ・ラーニング
- ・知識の活用・創造を学修する評価方法（ルーブリック・ピア評価・第三者評価など）

〈教学マネジメント〉

- ・教員間・地域社会・有識者との連携に伴う課題
- ・教員間の連携を促進するための授業の可視化と公開

(2) 話題提供

- ① 「内容言語統合型授業（CLIL）による専門教科と語学を結び付けた教育」の取り組み
吉田 研作 氏 上智大学 言語教育研究センター
- ② 「グローバルネットワークで共修学習を行う異文化交流授業(COIL)」の取り組み
山本 英一 氏 関西大学 外国語学部
- ③ 「ICTを用いて多様な価値観の共有を醸成する学びの仕組み」の提案
松村 豊子 氏 江戸川大学 デイアコミュニケーション学部

(3) 開催日時と場所

開催日時：平成28年12月25日（日）13:00～16:00

開催場所：早稲田大学 早稲田キャンパス 3号館

V. 今後の予定

今回は対話集会とし、当日、事前打合せ会を実施することにした。